

タホツナイ

四十二度六十九分

同二十三分

シヤラベツ

四十二度五十二分

同二十四分

シラスカ

四十二度五十六分

同二十四分

クスリ

四十二度五十八分

同二十六分

コンラムイ

四十二度五十八分

同二十六分

センホウチ

四十二度五十七分

同二十七分

アツケシ

四十三度〇二分

同二十七分

アンベツ

四十三度一十六分

同二十八分

ニシベツ

四十三度二十三分

同二十八分略〇中

寛政十二年庚申十二月

伊能勘解由謹圖

〔夷諺俗話〕天度之事

今年四年〇寛政 蝦夷地え趣く事、當春二月急々に事極、支度も早々取調べたる事故、北極出地測量の儀器も、師傳の如くためすには甚手重く、儀器急ぐには出來兼る故、予正〇串原が新案の儀器を考へ作らしめ、周髀儀と名付、是を持參せしめ、津輕三厩より、松前蝦夷地の端ソウヤ場所迄の北極出地度を測り得たる處、左の如し、

奥州津輕三厩 四十二度弱 同松前 四十二度 同松前石崎村松前より十一里 四十二度

三十〇分 西蝦夷地アイセキナイ同二十八里半 四十二度七十三分 同カイイジ同四十六里半

四十三度四十二分 同フルウミ内「イスルシ」 四十三度半 同テニシカ同百十四里

四十五度弱 同トマ、イ同百二十里 四十五度 同テシヲ 四十五度強 同ソウヤ

同百七十七里 四十六度二十三分